

## 解答

問一 泥の中から春に鋭く芽を出す蘆のように、悔しくて眠れぬ夜を過ごす自分や颯太にもいつかきっと希望が見えてくるはずだという思い。

問二 (正反対のように思われる点) 空良の句では、自分から周囲の世界に飛び込む勇気が持てずにいるが、冬馬の句では**勇気を持つて自分から他者と関わろうとする点**。

(ちかい感じがする点) どちらも新たな環境を前にして、自分の中にある傷つきやすい内心を表現している点。

問三 俳句を発表した時は、自分の心の中をさらけ出したようで恥ずかしく思っていたが、句に表現した自分の弱さを仲間が理解・共感してくれた上に、多くの人が選句してくれたことでうれしさを感じ、自信が生まれた。

問四 傷つくのがこわくて動き出せない空良の気持ちを読み取り、いつか不安を蹴飛ばして走り出せるから大丈夫だとほげます思い。

問一 翻訳は、原文の言葉が理解できない人たちからの作品を読みたいという求めがあつて生まれ、作り手と読者を立ちするものだから。

問二 単語や文法力に加えて、異文化に対する知識や興味、わからないことを調べようとする地道さなどにより、原文の意味と意図をくみとる力。

問三 (1) 翻訳者の存在を読者に感じさせない翻訳をすること。  
(2) 訳文は、翻訳者という思考する主体なくして生まれないから。

- 〔三〕  
1 連綿    2 破格    3 洋裁    4 宿敵    5 危急存亡